

## 教員コラム

【あれから10年】

准教授 吉田 景一



忘れることはできない。河川が逆流し樹木や車、建物までもが濁流に呑込まれ押し流されていく。目を疑いたくなるような光景がテレビから流れてきた。2011年3月11日、東北一帯を襲った地震は、死者・行方不明者一万八千有余名という甚大な被害をもたらしただけでなく東京電力福島第一原発の炉心溶解、爆発ということんでもない事故を引き起こした。アメリカのスリーマイル島を超えロシアのチエルノブイリと並ぶ重大事故となり、10年たった今でも処理作業は進まず問題は山積している。1995年1月17日の阪神淡路大震災から16年後の大震災である。

自然の脅威の前には我々は無力であるが、それは我々に経験と教訓を与えてくれる。「想定外」という東日本大震災の津波がそうだったように、我々のこれまでの経験や知識は断片的なものが多く不確実性が高い。今後30年以内に震度6以上の大地震が起こるといふ確率が高くなっている今、それに備えた準備、意思決定や判断が求められている。しかしながら、どうも日本の国の動きは教訓を十分に生かしているとは言いがたいのではないだろうか。東日本大震災から10年の節目を迎える今、我々は決して防災や減災への知識や教訓を風化させてはならない。

## 担当授業紹介

【保育内容言葉】と【子ども言葉】

特任准教授 千原 智美



この授業は、幼稚園教諭や保育士の免許を取るために必要な科目です。1回生の一年を通して勉強します。赤ちゃんは生まれてすぐ周りの人とのかわりの中で言葉を獲得していきます。その健やかな発達を支えるのが保育者の役目です。

授業では最初に乳幼児の言葉の発達段階を映像や事例で学びます。次に乳幼児の発達を支援する方法を実践的に学びます。具体的には、視聴覚教材（エプロンシアターや手袋人形、絵本、カルタなど）を作って演じたり、手遊びや絵本の読み聞かせ、言葉遊びなどをクラスメイトの前で実際に行ったりして、保育技術を身につけていきます。その経験が幼稚園や保育園、認定こども園へ実習に行ったときに役立ちます。経験を積み重ねていくことが保育力につながるのです。授業の中で互いに言葉を交わしながら勉強していきます。

